

ご近所のお医者さん

□
477
□

谷本医院院長 谷本吉造さん 一大阪市生野区



ポリファーマシー防ぐ

高齢者の多くは、複数の慢性疾患を抱えています。総合病院でいくつかの診療科にかかったり、複数の医療機関を受診したりする人は少なくありません。そうした中で最近、「ポリファーマシー」

が問題になることが多くな

ってきました。ポリは「たくさん」、ファーマシーは「調剤」という意味で、「必要以上に薬を飲んでいて、体に有害事象(副作用)が起きている状態」

種類や量常に見直しを

になります。

ポリファーマシーの問題点は、①薬による有害事象②薬の飲み間違い(どの薬を飲んだか分からなくなる)③医療費の増大(患者負担額の増大と国の財政圧迫)④薬への理解の低下(覚えきれない)——などが挙げられます。たくさんさんの薬を何種類も同時に服用することで、臓器への負担は大きくなり、多かれ少なかれ有害事象が発生する可能性は高まるでしょう。有害事象が現

を言います。これを防ぐためには、医療者は治療の優先順位や患者の個性を重視することが重要なポイントになります。一方、介護者にとっては、どこを受診し、誰に相談すべきかが重要

れると、合併症や転倒、骨折などの危険も増します。高齢者は身体の機能そのものが衰えるため、薬の影響もより強く出ると言われています。身体の状態に応じて、常に薬の種類や量を見直す必要があります。

多くの病院では、診療科ごとに対応することがほとんどなので、患者は「足が痛い」といえば整形外科、「喉が痛い」とい

い「こゝろ」科を受診すること

になります。その結果、薬の重複が起こる可能性があります。

また、今の医学教育は、薬の効用を過大視することがあり、薬をいわば「足し算」でとらえ、引き算する発想が教えられていないという意見もあるようです。ポリファーマシーと無関係ではないと言わざるを得ません。ポリファーマシーは医学の進歩によって恩恵を受ける代償として発生した新たな問題と言えるのではないのでしょうか。